

# ストーリーで巡る 坂越地区の歴史文化

坂越地区には、清流千種川と、天然の良港・坂越港に育まれた豊かな歴史文化が数多く残されています。5つのストーリーを軸に、散策してみませんか。



## ストーリー 1 港町・坂越

文安 2 ~ 3 (1445 ~ 1446) 年における兵庫北関（現在の神戸市）への入船記録「兵庫北関入船納帳」には、積出港として「坂越」の名が登場します。湾状地形と生島によって荒波から守られた天然の良港坂越浦は、漁業と共に廻船業で発展しました。

千種川では、高瀬舟による流通が行われており、年貢米をはじめとした積荷は高瀬舟着場で荷揚げされたのちに坂越の主要道「大道」を通って坂越湾で廻船に積まれ、大坂をはじめとした全国各地へと運ばれました。

また江戸後期になると、赤穂で生産した塩を運び出す塩廻船で栄え、坂越は港町として活況を呈しました。「黒崎墓所」は、坂越近海で客死した水夫などの墓地で、埋葬者の出身地は北は出羽（現在の山形・秋田県）から南は種子島（鹿児島）まで広い範囲にわたります。大遅神社の秋の祭礼「坂越の船祭」も、近世海運の隆盛を今に伝えています。



## ストーリー 2 伝説と信仰の山めぐり

坂越湾と生島が一望できる宝珠山一帯には、秦河勝を祀る大遅神社、中世に山岳寺院として栄えた真言宗古義派の妙見寺、宝珠山山頂周辺にある八十八ヶ所石仏などの豊かな歴史文化遺産が残されています。

また新田義貞とともに足利尊氏と戦った児島高徳の墓や、南朝方の皇族であった小倉御前の墓の伝承地など様々な伝説が生まれた地でもあります。



## ストーリー 4 古代の海人と秦河勝伝説

坂越には文献で遡りえる 11 世紀よりはるか昔の 5 世紀に、「古墳」を築いた人々がいました。平地の少ないこの地にあって、大きな権力を持っていた集団は、漁業や海上交通を生業とする「海人集団」だったのでしょうか。

秦河勝を祀る大遅神社の神地、生島にある生島古墳は、秦河勝の墓と伝えられています。秦河勝は蘇我氏の迫害から逃れてこの島にたどり着き、赤穂の地を開拓したといいます。旧赤穂郡内には、秦河勝を祀る神社（大遅神社）がかつて 30 近くもありました。



## ストーリー 3 村ごとの社寺と伝承

「庄内」と呼ばれたここ千種川下流域は、かつて自然堤防ごとに村が営まれ、水田地帯が広がっていました。地区内に所在する多数の神社や寺院は、江戸時代に営まれていた村ごとに祀られていたもので、区画整理事業が行われた現在でもそれぞれに残されていて、鎮守の森としての役割を今も果たしています。

こうしたなか「不生禅」と呼ばれる独自の仏法を説いた盤珪ゆかりの興福寺の裏山には座禅岩が残り、高野の誓教寺では、六道絵による絵解きが今も行われているなど、信仰に関する歴史文化遺産が残されています。



## ストーリー 5 古代の謎

高野から南野中にかけては、様々な謎が残されています。弥生時代中期としては全国最大級に位置づけられる銅鐸の鋳型片が見つかっているほか、隣接する高取山古墳群では、市内でも珍しい積石塚古墳があるなど、特異なものが目を引きます。高伏山古墳群にいたっては、標高約 250m の山頂に古墳が築かれており、なぜこのような高い場所に築かれたのか、その理由はわかっていません。

また尼子山城は尼子氏の城跡と伝えられ、その首が飛んだとされる首塚（尼子塚／五輪塔）も残されています。

